中原暢子設計の茶室小間と本歌の差異

一建築家・中原暢子の茶室に関する研究1一

深石 圭子

建築家中原暢子の茶室設計に対する考え方を明らかにするには、小間・広間・水屋等の構成、及び露地との関連性を明らかにする必要がある。本稿では、その中でも小間を取り上げ、「森邸」茶室三畳台目、自邸「茶室のある家」茶室二畳台目及び「大野邸茶室」茶室三畳台目と各々の本歌との比較を行い、その差異を明らかにすることで中原の小間設計に対する考え方を明らかにする。

結果、基本的には、本歌を忠実に再現しようと試みているものの、細部においては大胆な差異がみられた。「森邸」茶室三畳台目では、板畳を設けない代わりに新たに茶道口を追加、自邸「茶室のある家」茶室二畳台目では、照明や空調等の設備的な面を改善し、「大野邸茶室」茶室三畳台目では、床の間脇にある壁面の吹抜きをなくした代わりに、点前座の奥に採光のための下地窓を配置している。以上のことから、亭主としての使い勝手を重視した設計がされていることが明らかになった。

キーワード:中原暢子 小間 写し 本歌 差異

1. はじめに

建築家中原暢子 (1929-2008) (以下、「中原」という) は、林雅子 (1928-2001)、山田初江 (1930-)と共に設計事務所「林・山田・中原設計同人」を設立し、44年にわたり住宅を中心とした設計活動を行ってきた。事務所では、共同設計は行わず、場所、所員は共有するスタイルで経営していた。

中原は、生涯に少なくとも 26 室もの茶室設計に取り組んだ。3 室の茶室をもつ自邸「茶室のある家」は建築雑誌に掲載された数少ない作品のうちのひとつであり、中原の代表作ともいえるものである。

また、40歳前後から茶道を習い始め、表千家として「宗暢」の茶名を受け、多くの弟子を育てた。自邸では、自ら積極的に茶会を開き、茶道教室や懐石料理教室を行うなど、自身の客をもてなす側に立った亭主や裏方としての幅広い活動を

行った。

1-1 中原設計の小間の写し

中原は、少なくとも3作品の小間を写しとして 実現しているとみられる(表1)。

表1 中原が設計した写しとみられる小間

建築名(設計年)	室名称	畳の数	本歌
「森邸」(1987)	茶室三畳台目	平三畳台目	表千家 「不審庵」
自邸「茶室のあ る家」(1985)	「暢庵」 茶室二畳台目	二畳台目	堀内家 「長生庵」
「大野邸茶室」 (1990)	茶室三畳台目	深三畳台目	江戸千家 「一円庵」

「写し」とは、原本を写した書画類、原品になぞらえて造った茶道具類、原型を模した茶室などをいう。この場合、もととなったものを「本歌」という¹⁾。

本稿において、何を以って「写し」とするかは、

材料や寸法、図面による意匠が同一であるか否か と定義付ける。

1-2 目的

中原の茶室設計方法を明らかにするには、小間・広間・水屋等の構成、及び露地との関連性を明らかにする必要がある。本稿では、小間に焦点を当て、特に写しの性格が強い3作品の小間について本歌との差異を明らかにすることによって、中原の小間設計に対する考え方を明らかにする。

1-3 方法

根岸照彦著『茶室の解明 平面データ集成』 (2001.11) に掲載の実在する古今のさまざまな 1,159件の茶室の中から、畳の構成、炉の切り方が同じ形式であり、かつ中柱があるものを抽出し、表にまとめ、中原設計の本歌の写しと思われる「森邸」茶室三畳台目、「大野邸茶室」茶室三畳台の位置付けを行う。そして、それらと各々の本歌である茶室の建築図面等を用いて比較を行い、その差異を明らかにする。

2. 「森邸」茶室三畳台目

中原は、1987年に木造2階建ての専用住宅である「森邸」を設計している。その東南の角には表千家「不審庵」を写したと思われる三畳台目の茶室が隣接している。

2-1 上座床三畳台目の茶室

中原が設計した「森邸」茶室三畳台目の平面形状は、平三畳台目中柱台目切である。床の間位置は、上座床である。上座床とは、点前座に亭主が座してその前方(左手)に床の間が位置するものをいう。平三畳台目とは、点前畳から丸畳を横並びとして横長敷いた茶席のことをいい、台目切とは、点前畳に接した外側の畳を切る出炉のうち、点前畳が台目畳で点前畳の長辺を二等分した位置から上座側に切られ、点前畳の炉の先が小間中(京畳 1/4 間、1/4 畳)になる炉の切り方をいう。

「不審庵」を含む主な上座床平三畳台目中柱台 目切茶室は以下の表の通りである(表 2)。三畳 台目としては129件存在するが、上座床平三畳大 目中柱台目切に限ると表千家「不審庵」を合わせ て7件が該当した。

平三畳台目の場合、躙口正面に床の間を配置するのが一般的だが、「森邸」茶室三畳台目は躙口の右に床の間がある。これと同じ形式は、古文書に掲載されている「座敷三畳大目」のみであり、極めて特殊な入り方であるといえる。

表 2 上座床平三畳台目中柱台目切茶室

茶室名	造営	好み (創建者)	茶道口数と その場所	床の間と躙 口の関係
「座敷三畳大目」	不明 (古文書)	不明	1 下 (南)	躙口右
「利休三畳台不 審庵」	不明 (古文書)	千利休	1 上(北) 板畳	躙口正面
表千家 「不審庵」	大正以前 (1913 年再 興)	千利休	1 上(北) 板畳	躙口正面
浅草寺伝法院 「天祐庵」	天明年間 (1781-89)	牧野作兵衛	1 上(北) 板畳	躙口正面
弘月邸 「審悦庵」	不明	不明	1 上(北) 板畳	躙口正面
久保邸 「惣庵」	1937-1940	久保惣太郎	1 上(北) 板畳	躙口正面
「実修庵」	不明	不明	1 左 (西)	躙口正面
「森邸」茶室 三畳台目	1987.2 設計	中原暢子	2 上 (北)・ 左 (西)	躙口右

2-2 「不審庵」について

「不審庵」は、千家二代少庵(1546-1614)が、本法寺前の地に千家を再興する際、深三畳台目と三畳敷道安囲の茶室を建て、これら二つの茶室のいずれかに「不審庵」の額が掲げられていたと伝わる。三代宗旦(1578-1658)は、一畳半を造立して「不審庵」としたが、これを継承した四代・表千家初代江岑宗左(1913-1671)は父宗旦とはかり、不審庵を平三畳台目に建て替えたという歴史をもつ。「不審庵」は表千家の通称とされており、現在の茶席は、1913年に再建されたものである²⁾。

「不審庵」の忠実な写しとしては、最古のもので天明年間 (1781-1788) 造営の浅草寺伝法院「天祐庵」がある。昭和 33 (1958) 年に現在の地に移築した³⁾。

2-3 「森邸」茶室三畳台目の材料や寸法等に よる比較

「森邸」茶室三畳台目と「不審庵」を材料や寸 法等で比較すると、次のようになる(表 3)。

表 3 「森邸」茶室三畳台目と「不審庵」の材料や寸 法等による比較(単位:尺)

東京都杉並区 京都府京都市 森邸内 表千家邸内 表千家邸内 表世家邸内 表世家邸内 表世家邸内 表世家邸内 表世家邸内 表勝手 本勝手 本勝手 本藤手 本藤手 本藤手 上座床 上上座床 上上座 上上座 上上座 上上座 上上座 上上座 上上座 上上上座 上上上座 上上上座 上上上座 上上上座 上上上上座 上上上上座 上上上上上上上上	茶室名		「森邸」 茶室三畳台目	「不審庵」
# 中	~~			京都府京都市
大力 1913 年再建 1913 年 1913	所在		森邸内	表千家邸内
下地窓1 (万世監路) 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本席 (畳敷) 本床 (畳敷) 本床 (畳敷) 本床 (畳敷) 在屋 上座床 上座 上座	建設	時期	(設計:1987.2)	1646 年(原型) 1913 年再建
形式 本床 (畳敷) 本床 (畳敷) 位置 上座床 上座床 上座床 上座床 上座床 上座床 上座床 上座床 床柱 (不明) 赤松丸太 径 (不明) 赤松丸太 径 (不明) 0.30 位置 白目切 白目切 白目切 白目切 中柱 赤松皮付 皮付女松 径 0.18 (直) 0.18 (直) 0.18 (直) 0.18 (直) 0.18 (直) 0.18 (直) 平柱 赤松皮付 皮付女松 径 0.18 (直) 0.18 (直) 平枝高 約 2.00 2.26 至欄、女竹 桐材材 大方井 上座棚 上座棚 大方井 上座棚 大方井 大方上 大方井 大方上 大力上 大力上	方位	躙口	東	南
Repair	勝	手	本勝手	本勝手
床の間 床框 (不明) 桧丸太半割 床柱 (不明) 赤松丸太 径 (不明) 0.30 炉 種類 台目切 台目切 中柱 赤松皮付 皮付女松 径 0.18 (直) 0.18 (直) 吹抜高 約 2.00 2.26 釣棚 二重棚、桐 桐材 床の間 杉鏡板張 鏡天井 台目 掛込天井 力を検 床前 竹竿がすマ 竹棒縁補天井 開口前 井込天井 カシス板竹竿 有約 1.45 ×約 1.2 実き上げ窓 有約 1.32 ×約 0.92 約 1.45 ×約 1.2 素道口 高×幅 2.20 × 2.00 2.26 × 2.05 高×幅 5.00 × 2.10 5.80 ×約 2.00 業直 万立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 5.20 × 1.92 3.90 × 1.94 株仕口 建具 大灯口、和紙タイ 大灯口 東北 高×幅 2.00 × 1.80、力竹 力竹 貴次のの高 1.45 1.40 2.40 ×約 2.21、付 市地窓 2 高×幅 2.40 × 2.40、力竹 力竹		形式	本床 (畳敷)	本床 (畳敷)
床柱 (不明) 赤松丸太 径 (不明) 0.30 炉 種類 台目切 台目切 中柱 赤松皮付 皮付女松 径 0.18 (直) 0.18 (直) 吹抜高 約 2.00 2.26 釣棚 二重棚、桐 一種材材 床の間 杉鏡板張 鏡天井 台目 掛込天井 力を放竹竿 床前 竹竿がすマ 竹棒縁蒲天井 開口前 井込天井 カシス板竹竿 実き上げ窓 有約 1.32 ×約 0.92 約 1.45 ×約 1.2 薬自 2.20 × 2.00 2.26 × 2.05 高×幅 5.00 × 2.10 5.80 ×約 2.00 業直 万立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 5.20 × 1.92 3.90 × 1.94 総仕口 建具 大立口、釣襖 高×幅 2.00 × 1.80、力竹 力竹 大灯口、和紙タイ 力竹 力竹 電からの高 1.45 1.40 大畑口上 高×幅 2.40 × 2.40、力竹 竹竹 一方のの高 2.34 約 2.27 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅				
接 (不明) 0.30 炉 種類 台目切 台目切 中柱 赤松皮付 皮付女松 径 0.18 (直) 0.18 (直) 吹抜高 約 2.00 2.26 釣棚 二重棚、桐 一個材 床の間 杉鏡板張 鏡天井 台目 掛込天井 力をがマ 財込天井 力をがマ 竹棹縁蒲天井 財込天井 カイをがすマ 有約 1.32 ×約 0.92 約 1.45 ×約 1.2 実き上げ窓 有約 1.32 ×約 0.92 約 1.45 ×約 1.2 1.50 × 2.10 素道口 高×幅 5.00 × 2.10 5.80 ×約 2.00 2.26 × 2.05 高×幅 5.00 × 2.10 5.80 ×約 2.00 2.26 × 2.05 3.90 × 1.94 お仕口 建具 方立口、釣襖 方立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 2.00 × 1.80、力竹 力竹 力竹 大灯口、和紙タイ 力竹 力竹 力竹 電からの高 1.45 1.40 大田 高×幅 2.40 × 2.40、力竹 2.40 ×約 2.21、付 下地窓 2 (欄口上) 高×幅 1.50 × 1.20、力竹 1.60 ×約 1.60、竹 電からの高 高×幅 1.50 × 1.20、力竹 2.00 × 4.25 約 2.02 × 81 47 <td>床の間</td> <td></td> <td></td> <td></td>	床の間			
炉 種類 台目切 台目切 中柱 赤松皮付 皮付女松 径 0.18 (直) 0.18 (直) 吹抜高 約 2.00 2.26 釣棚 二重棚、桐 一種棚、女竹・桐材 床の間 杉鏡板張 鏡天井 台目 井込天井 一方をガマ 財込天井 クトを持た クトを持た 大京前 竹竿がすマ 村棒縁蒲天井 財込天井 クトを持た 有約 1.32 ×約 0.92 約 1.45 ×約 1.2 大京山 高×幅 2.20 × 2.00 2.26 × 2.05 高×幅 5.00 × 2.10 5.80 ×約 2.00 基本 万立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 5.20 × 1.92 3.90 × 1.94 大灯口、和紙タイ 大灯口 大灯口 下地窓 1 高×幅 2.00 × 1.80、力竹 カ1.82 ×約 2.0 下地窓 2 (調口上) 高×幅 2.40 × 2.40、力竹 竹 畳からの高 1.45 1.40 カ2.40 × 約 2.21、 上地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50 × 1.20、力竹 1.60 ×約 1.60、 「高×幅 1.50 × 1.20、力竹 カ1.60 ×約 1.60、				赤松丸太
中柱 赤松皮付 皮付女松 径 0.18 (直) 0.18 (直) 吹抜高 約 2.00 2.26 釣棚 二重棚、桐 一種材 床の間 杉鏡板張 鏡天井 台目 掛込天井 一方室がマ 竹棹縁龍天井 房下地窓1 大井 大井 大井 大道口 高×幅 2.20×2.00 2.26×2.05 高×幅 2.20×2.00 2.26×2.05 5.80×約 2.00 大道口 建具 方立口、釣襖 方立口、釣襖 お幅 5.20×1.92 3.90×1.94 水灯口 和紙タイ 火灯口 大灯口 和紙タイ 大灯口 下地窓1 高×幅 2.00×1.80、力竹 約 1.82×約 2.0 下地窓2 (調口上) 高×幅 2.40×2.40、力竹 2.40×約 2.21、竹 畳からの高 1.45 1.40 量からの高 2.34 約 2.27 下地窓3 高×幅 1.50×1.20、力竹 1.60×約 1.60、竹 量からの高 約 3.90 4.00 高×幅 200×425 約 202×約 47		径	(不明)	0.30
Ammunication Am	炉	種類	台目切	台目切
独璧 吹抜高 約 2.00 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.26 2.27 2.26 2.26 2.27 2.27 2.20 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.26 × 2.05 2.20 × 2.10 2.26 × 2.05 2.20 × 2.10 2.26 × 2.05 2.20 × 2.10 2.26 × 2.05 2.20 × 2.10 2.26 × 2.05 2.20 × 2.10 2.26 × 2.05 2.20 × 2.10 2.20 × 2.10 2.20 × 2.10 2.20 × 2.10 2.20 × 2.10 2.20 × 2.10 2.20 × 2.10 2.20 × 2.20 × 2.20 2.26 × 2.05 2.20 × 2.10 2.20 × 2.20 × 2.20 2.26 × 2.20 2.26 × 2.20 2.26 × 2.20 2.26 × 2.20 2.26 × 2.20 2.26 × 2.20 2.20 × 2.20 × 2.20 2.20 ×		中柱	赤松皮付	皮付女松
	L	径	0.18 (直)	0.18 (直)
下地窓1 (炉畳脇)	袖壁 [吹抜高	約 2.00	2.26
天井 台目 掛込天井 /ネ板竹竿 掛込天井 竹棒縁蒲天井 期口前 掛込天井 財込天井 有約1.32×約0.92 掛込天井 育約1.32×約0.92 躙口 高×幅 2.20×2.00 2.26×2.05 素道口 高×幅 5.00×2.10 5.80×約2.00 建具 方立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 5.20×1.92 ※1 3.90×1.94 建具 火灯口、和紙タイ フ貼 火灯口 下地窓 1 (炉畳脇) 高×幅 2.00×1.80、力竹 力竹 約 1.82×約 2.0 力竹 下地窓 2 (躙口上) 高×幅 2.40×2.40、力竹 竹 1.60×約 2.21、竹 竹 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50×1.20、力竹 竹 1.60×約 1.60、竹 竹 量からの高 約 3.90 4.00 高×幅 200×425 約 202×約 47		釣棚	二重棚、桐	二重棚、女竹、 桐材
天井 市前 竹竿ガマ 竹棹縁蒲天井 曜日前 掛込天井 掛込天井 変き上げ窓 有約1.32×約0.92 約1.45×約1.2 藤幅 2.20×2.00 2.26×2.05 高×幅 5.00×2.10 5.80×約2.00 建具 方立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 5.20×1.92 3.90×1.94 ※1 火灯口、和紙タイ 火灯口 車具 火灯口、和紙タイ 大灯口 下地窓1 高×幅 2.00×1.80、力竹 約1.82×約2.0 下地窓2 高×幅 2.40×2.40、力竹 2.40×約2.21、竹 「脚口上 高×幅 2.40×2.40、力竹 1.60×約1.60、竹 上50×1.20、力竹 1.60×約1.60、竹 2.00×4.25 約2.02×約4.25		床の間		鏡天井
大井 調口前 掛込天井 水板竹竿 排込天井 有		台目		掛込天井
調口前 掛込天井	_天 井.	床前	竹竿ガマ	竹棹縁蒲天井
大き上げ窓 約1.32×約0.92 約1.45×約1.2 第1.32×約0.92 約1.45×約1.2 京×幅 2.20×2.00 2.26×2.05 3.80×約2.00 2.26×2.05 3.80×約2.00 2.26×2.05 3.90×1.94 3.90×1.94 3.90×1.94 2.20×1.92 3.90×1.94 2.21×1.05 2.20×1.80、力竹 約1.82×約2.00×1.80、力竹 2.40×約2.21×1.05 2.40×2.40、力竹 2.40×約2.21×1.05 2.40×2.40、力竹 2.40×約2.21×1.05 2.34 3.227 3.54 3.50×1.20、力竹 1.60×約1.60、竹 2.54 3.90 3.90 4.00 3.54 2.00×4.25 3.90×4.25		躙口前		掛込天井
高×幅 5.00×2.10 5.80×約 2.00 建具 方立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 5.20×1.92 3.90×1.94 ※1 火灯口、和紙タイ 火灯口 下地窓 1 (炉畳脇) 高×幅 2.00×1.80、力竹 力竹 約 1.82×約 2.0 下地窓 2 (鋼口上) 高×幅 2.40×2.40、力竹 竹 九竹 位 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50×1.20、力竹 1.60×約 1.60、竹 直からの高 約 3.90 4.00 高×幅 200×425 約 202×約 47		突き上げ窓		有 約 1.45×約 1.20
乗担日 建具 方立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 5.20×1.92 ※1 3.90×1.94 建具 火灯口、和紙タイ 力貼 火灯口 下地窓 1 (炉畳脇) 高×幅 2.00×1.80、力竹 力竹 約 1.82×約 2.0 力竹 畳からの高 1.45 1.40 畳からの高 2.40×2.40、力竹 竹 2.40×約 2.21、竹 竹 下地窓 2 (潤口上) 高×幅 2.40×2.40、力竹 竹 1.60×約 1.60、 竹 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50×1.20、力竹 竹 1.60×約 1.60、 竹 量からの高 約 3.90 4.00 高×幅 2.00×4.25 約 2.02×約 4.7	躙口	高×幅		2.26×2.05
産具 方立口、釣襖 方立口、釣襖 高×幅 5.20 × 1.92 3.90 × 1.94 ※ 1 火灯口、和紙タイ 火灯口 丁地窓 1 (炉畳脇) 高×幅 2.00 × 1.80、力竹 約 1.82 ×約 2.0 力竹 下地窓 2 (鋼口上) 高×幅 2.40 × 2.40、力竹 2.40 × 約 2.21、竹竹 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50 × 1.20、力竹 1.60 × 約 1.60、竹竹 上のの高 約 3.90 4.00 高×幅 200 × 4.25 約 202 × 約 4.7		高×幅	5.00×2.10	5.80×約 2.00
総付口 高×幅 ※1 3.90×1.94 東具 火灯口、和紙タイ 火灯口 下地窓1 (炉畳脇) 高×幅 2.00×1.80、力竹 約 1.82×約 2.0 畳からの高 1.45 1.40 下地窓2 (躙口上) 高×幅 2.40×2.40、力竹 2.40×約 2.21、竹 畳からの高 2.34 約 2.27 下地窓3 (点前座脇) 高×幅 1.50×1.20、力竹 1.60×約 1.60、竹 豊からの高 約 3.90 4.00 高×幅 2.00×4.25 約 2.02×約 4.7	水旭口	建具	方立口、釣襖	方立口、釣襖
建具 火灯口、和紙タイフ貼 火灯口 下地窓 1 (炉畳脇) 高×幅 2.00×1.80、力竹 力竹 約 1.82×約 2.0 力竹 力竹 畳からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (潤口上) 高×幅 2.40×2.40、力竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹	於什口	高×幅		3.90 × 1.94
下地窓 1 (炉畳脇) 高×幅 2.00×1.80、ガヤ 力竹 畳からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (鋼口上) 高×幅 2.40×2.40、力竹 竹 竹 竹 竹 畳からの高 2.34 約 2.27 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50×1.20、力竹 竹 1.60×約 1.60、竹 竹 量からの高 約 3.90 4.00 高×幅 200×425 約 202×約 47	和任日	建具		火灯口
声地窓 2 (躙口上) 高×幅 2.40 × 2.40、力竹 竹 2.40 × 約 2.21、竹 竹 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50 × 1.20、力竹 竹 1.60 × 約 1.60、竹 竹 豊からの高 約 3.90 4.00 高×幅 2.00 × 4.25 約 2.02 × 約 4.7		高×幅	2.00×1.80、力竹	約 1.82 ×約 2.05、 力竹
下地窓 2 (躙口上) 高×幅 2.40×2.40、ガ竹 竹 豊からの高 2.34 約 2.27 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50×1.20、力竹 竹 竹 豊からの高 約 3.90 4.00 高×幅 2.00×4.25 約 2.02×約 4.7	(对"且加加)	畳からの高	1.45	1.40
宣からの高 2.34 約 2.27 下地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50×1.20、力竹 1.60×約 1.60、竹 竹 量からの高 約 3.90 4.00 高×幅 2.00×4.25 約 2.02×約 4.7		高×幅	2.40×2.40、力竹	2.40×約 2.21、力 竹
ト地窓 3 (点前座脇) 高×幅 1.50×1.20、刀竹 竹 畳からの高 約 3.90 4.00 高×幅 200×425 約 202×約 47	(順口上)	畳からの高	2.34	約 2.27
量からの局 約 3.90 4.00 高×幅 2.00×4.25 約 2.02×約 4.7		高×幅	1.50×1.20、力竹	1.60×約 1.60、力 竹
高×幅 2.00×4.25 約 2.02×約 4.7	(尽明/笔)坳/	畳からの高	約 3.90	4.00
1 +# + 25	連子窓	高×幅	2.00×4.25	約 2.02 ×約 4.75
置からの高 2.48 約 2.47	年1120	畳からの高	2.48	約 2.47
仕上げ (不明) (不明)	壁	仕上げ	(不明)	(不明)
壁 腰貼 みなと紙 湊紙		腰貼	みなと紙	湊紙
腰貼高 約 1.40, 約 0.90 1.80、1.40		腰貼高		1.80、1.40
	参考資料		新築工事設計図』	北尾治道:『茶室 の展開図』(1970)

※1 高さ寸法が、図面との比較により誤植と考えられる。

「森邸」茶室三畳台目は、炉畳脇にある下地窓 1が高さ2尺、幅1尺8寸と若干縦長である。また、 点前座脇の高所ある下地窓3についても幅が1尺 2寸で、縦長である。

若干の数値的な違いはあるものの、天井や壁の 材料、棚の形式及び下地窓に力竹を設けるなど、 採用した材料はほぼ同一である。

2-4 「森邸」茶室三畳台目の図面による比較 (表 4)

平面図をみると、「森邸」茶室三畳台目の躙口は、「不審庵」とは異なり東壁面にあることが確認できる。そのため躙口上に位置していた下地窓2も 躙口と共に東壁面へ移動し、その結果、東壁面にあった連子窓は、南壁面に計画されている。また、「不審庵」の特徴である台目畳に付した幅5寸1分の板畳は、「森邸」茶室三畳台目にはみられない。さらに、水屋に直接つながる出入口として、釣襖の茶道口の他に、点前座の背後にも高さ5尺、幅2尺6寸の引戸が設けられている(図1)。

躙口の配置を東に変更したのは寄付と露地、茶室の位置関係からやむを得ない変更であったと思われるが、結果躙口から床の間を正面にみる構成を犠牲にしている。また、「不審庵」の板畳は、点前のしやすさのために設けられているが、「森邸」茶室三畳台目は、板畳を採用しない代わりに幅広の台目畳を採用している。それでも点前座の幅は本歌より狭い。特に夏秋に用いる風炉の場合、「森邸」茶室三畳台目では、釣戸への出入りが難しくなる。そのため、点前畳背後にある引き戸の茶道口を新たに設けたのではないかと推察でき

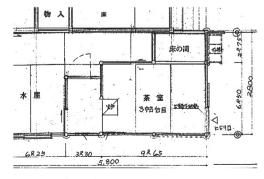


図1 「森邸」茶室三畳台目と水屋平面図

茶室名 「森邸」茶室三畳台目 「不審庵」 平面図 (北が上) CHATSON 3 枯台目 <u>ک</u> ۱ 第日上の窓下地獄と内付 3 (3) -3 給性表 \$ 1 東展開図 中旬 一 漢 護 紙

表 4 「森邸」茶室三畳台目と「不審庵」の図面による比較

る。通常は1つである茶道口を2つにすることで、 亭主の使い勝手を良くしている。

以上のことから、「森邸」茶室三畳台目は、「不 審庵」の完全な写しではないことが明らかになっ た。

2-5 まとめ

不審庵は、表千家の象徴であり、これを自宅の

茶室に写したいと考える茶人は多いと考えられる。しかし、風炉先から入る点前座は極めて特殊でこれを写すことは非常に困難であったと思われる。

「森邸」茶室三畳台目と「不審庵」との差異を 以下にまとめる。

①炉畳南面にある下地窓1は縦に長く、幅についても、1尺8寸と若干短い。

- ②点前座脇の高所ある下地窓3についても縦長であり、幅も1尺2寸と若干短い。
- ③ 躙口を東面からとっているため、躙口上部に あった下地窓も東面配され、東面にあった連 子窓と入れ替わっている。
- ④点前畳のみ幅3尺3寸という他の丸畳に比べ幅の広い台目畳を採用している。しかし、「不審庵」の点前座幅は、板畳を含めても約8尺8寸ほどであり、本歌より狭い。
- ⑤茶道口は、北側の釣襖の他に、躙口正面に位置する引戸が配置されている。

不審庵は、平面図でみるように戻り茶道口であり、点前の仕方が特殊である。『不白筆記』の「不審庵の仕様」には、「一 風炉ハ中柱より外の畳へ常ノ通リ置付ル。此時香合ハ、下ノ棚ニ飾ル。横竹ノ下より取り申候。」40とあり、風炉の時期の点前について述べられている。中原の遺品の中から、中原が主宰していたと思われる暢庵茶事教室の中で行った『不白筆記』の写しが見つかっていることから、中原はこれを踏まえて新しい茶道口を付したと考えられる。

3. 自邸「茶室のある家」茶室二畳台目

中原は1985年に一部鉄骨造とした木造2階建て、3室の茶室(八畳の広間2室、二畳台目の小間1室)を有する自邸「茶室のある家」(現存せず)を設計しており、1階は茶室や水屋の他、寄付として使うこともできる応接室、茶懐石に対応できる台所等茶の湯に関するスペースであり、2階は

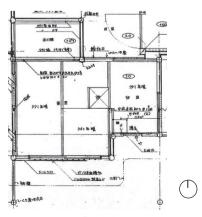


図2「暢庵」平面図

個室や浴室等のプライベートな住空間を中心に展開している。そして、1階にある小間「暢庵」(図2・写真1)は表千家堀内家「長生庵」を写したものであることが明らかになっている。「現代住宅の中に、茶室草庵の空間構成をもう一度活かしてみたい」という当時の中原の課題⁵⁾が具現化された作品であった。中原が主宰していたと思われる暢庵研究会の指導は、表千家堀内家の千葉宗立から受けていることが判っている。さらに中原は、自邸を設計するために大工等職人と一緒に堀内家「長生庵」にて実測調査を行い詳細な実測図を残している(図3)。

また、中原は、自邸の全ての茶室に床暖房を設置している(図 4)。電気の薄型畳ヒーターを畳表の下に仕込み、畳の踏み心地に違和感がないよう配慮していたという⁶⁾。自邸の冷暖房は茶室を含め、台所で集中管理可能となっている。

「暢庵」の床の間や突き上げ窓に蛍光灯を仕込

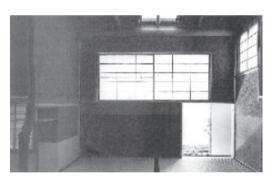


写真1 「暢庵」内部

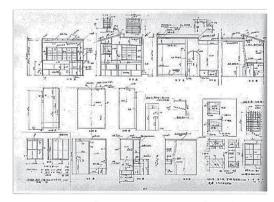
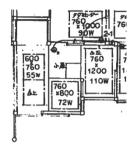


図3 中原による「長生庵」実測図面と「暢庵」の図面



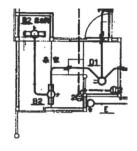


図4「暢庵」床暖房工 事設計図

図 5 「暢庵」電気配線 図・コンセント図

み、茶室内にもコンセントを設置する等、近代的 な対応をとっている(図5)。

3-1 二畳台目の茶室

中原が設計した「暢庵」の平面形状は、二畳台 目中柱台目切である。二畳台目とは、丸畳二畳と 台目畳一畳で構成された茶席のことをいう。

主な二畳台目中柱台目切は以下の表の通りである。二畳台目の茶室計46件のうち、中柱台目切の茶室は10件であった(表5)。二畳台目中柱台目切かつ、躙口正面に床の間があるのは、半数の5件である。

表 5	二畳台目中柱台目切茶室

茶室名	床の間位置	造営	好み (創建者)	床の間と躙 口等の関係
「数寄屋 弐畳大目」	上座床	不明 (古文書)	不明	躙口正面
「織部数寄 弐畳大目」	下座床	不明 (古文書)	古田織部	躙口左
「有楽囲」	下座床	不明 (古文書)	織田有楽	貴人口左
「数寄屋」	亭主下座床	不明 (古文書)	不明	躙口左
建仁寺 「東陽坊」	下座床	天正年間 (1573-93)	千利休 小堀遠州	躙口左
大徳寺高桐 院「松向軒」	下座床	江戸時代 (1603-1869 ?) 初期	細川三斎	躙口正面
南宗寺 「実相庵」	下座床	江戸時代 (1603-1869 ?)	千利休	躙口正面
大徳寺真珠 庵「庭玉軒」	下座床	寛永年中 (1624-45)	金森宗和	貴人口左
堀内家 「長生庵」	下座床	18 世紀 (1701- 1800) 初期	堀内仙鶴	躙口正面
大樋家 「陶土軒」	下座床	1992 再建	鵬雲斎	躙口正面
自邸「茶室 のある家」 「暢庵」	下座床	1986.4	中原暢子	躙口正面

3-2 「長生庵」について

「長生庵」(図6・写真2)は、表千家堀内家を代表とする堀内仙鶴⁷⁾ 好みの茶室である。18世紀初期に建設されたが、現存するものは1969年に再建されたものである。下座床で、躙口は南側に付き、茶道口のほかに床脇に給仕口を設けている。炉は台目切で、点前座の中柱には赤松の皮付ゆがみ丸太を用い、壁留めには竹を使う。風炉先右側に二重の釣棚がある。窓は西に下地窓二か所、南の躙口上に連子窓、風炉先に下地窓をあけている。天井は躙口上部が掛込天井、床前が平天井、点前座が落天井という三段の構成になり、掛込天井に突き上げ窓をあける⁸⁾。二畳台目の標準型といわれている。

3-3 「黙雷庵」について

「長生庵」の図面とほぼ同じ形式のものに江戸 千家の二畳台目茶室「黙雷庵」がある。そこで、「黙 雷庵」の調査を行った。「黙雷庵」(図7) は、江



図6 「長生庵」平面図



写真2 「長生庵 | 内部

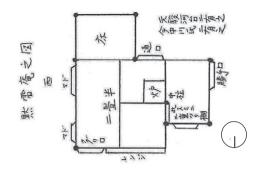


図7 「黙雷庵 | 平面図

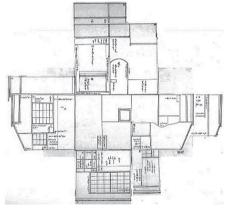


図8 「黙雷庵 | 起こし絵図

戸千家の祖川上不白 (1719-1807) が帰任して最初に建てた利休好みの茶室 (現存せず) であり、文献のみで知ることができる。建設は宝暦 (1751-64) 前期 9) とされており、現在の東京千代田区神田駿河台に建てられた。『囲おこし図』に収録されている起こし絵図 (図 8) 10) からその詳細を読み取ることができた。南向き 11)、下座床で点前座勝手付に茶道口、床脇に給仕口、床正面に躙口があけている 12)。「黙雷庵」に掲げていた額は、川上不白の師表千家七代如心斎 (1705-1751) 13) の筆で、杉板に「黙雷」の 2 文字が白く書かれていたという。

川上不白は、1773 年神田明神に「蓮華庵」(三畳台目切道安囲)に移り住み、「黙雷庵」は、しばらくして神田藩主中川修理太夫の江戸屋敷に移された¹⁴⁾とされる。なお、現存する池之端の「蓮華庵」は、八代一元斎(1884-1944)が昭和のはじめに復原したものである。

3-4 「暢庵」の材料や寸法等による比較

二畳台目中柱台目切の「暢庵」、「長生庵」及び「黙雷庵」の各部分の形式や材料、寸法による比較をすると、次のようになる(表6)。「暢庵」と「黙雷庵」の給仕口の高さは3尺9寸2分と同一で、「長生庵」より若干低い。多少の寸法の違いはあるものの、かなり厳密に写されており、材料についてもほぼ違いはみられない。

3-5 「暢庵」の図面による比較

3つの二畳台目を図面により比較(表7)すると、 平面図は、畳の敷き方や炉の位置、躙口と床の位 置関係、茶道口、給仕口に至るまで同一であった。 中原は自邸の「暢庵」にて忠実に「長生庵」の写 しを行っていることが確認できた。

次に「暢庵」と「長生庵」の比較を詳細にみてみる。「長生庵」南展開図の連子窓敷居は、連子窓のところで切れているのに対し、「暢庵」は、柱まで伸びている。この連子窓は、引違いの障子となっており、敷居を伸ばさなくても開口は可能である。また、同連子窓の鴨居は伸びていない。また、構造的な意味合いで柱間に敷居を通したとも考えづらい。そのため、これは機能を伴わない中原の意匠を表した設計であると思われる。

よって「長生庵」と「暢庵」は、細部についても忠実に再現されており、丹念に読み取った様子がみてとれる。

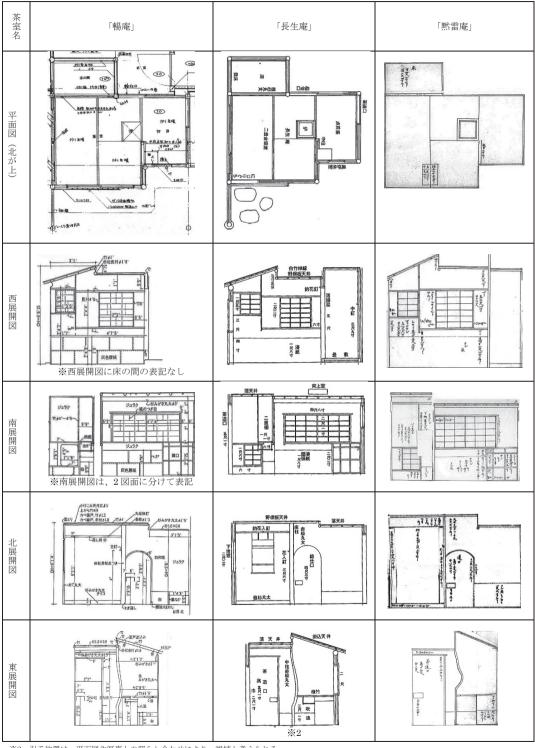
続いて、「長生庵」と「黙雷庵」を比較すると、連子窓の位置に大きな違いをみることができる。南展開図にある連子窓の位置が、「長生庵」はほぼ中央に配置しているのに対し、「黙雷庵」は、点前座側に寄せて配置されている。また、西展開図の二つの下地窓の高さ関係が、「長生庵」は、躙口側の小さな下地窓の上辺が若干上がっており、「黙雷庵」は、同窓が下がっていることが分かった。

中村昌生は、「黙雷庵」を「長生庵」と比較し、「仙鶴は覚々斎の門下であり、覚々斎のあとをうけた如心斎の弟子不白との間の作風上の脈絡がこの二つの茶室にあらわれているともみられよう。」¹⁵⁾と述べている。

表 6 「暢庵」、「長生庵」及び「黙雷庵」の材料や寸法等による比較(単位:尺)

茶	室名	「暢庵」	「長生庵」	「黙雷庵」
所在		埼玉県浦和市 (現さいたま市浦和区)	京都府京都市	東京都千代田区 (駿河台)
		中原自邸内	堀内家邸内	(周辺は武家屋敷)
建訂	没時期	1986年4月 (現存せず)	18 世紀(1701-1800)初期 天明年間(1781-89)と元治年 間(1964-65)に焼失、明治 2 (1869)再建	宝暦 (1751-64) 前期 (現存せず)
方位	躙口	南	南	南
J.		本勝手	本勝手	本勝手
	形式	本床 (畳敷)	本床 (畳敷)	本床 (畳敷)
	位置	下座床	下座床	下座床
床の間	床框	杉みがき丸太	杉北山磨丸太	(不明)
	床柱	赤松皮付丸太	赤松丸太	(不明)
	径	(不明)	0.28	(不明)
炉	種類	台目切	台目切	台目切
	中柱	赤松皮付(曲)	赤松丸太(曲)	(不明)(曲)
	径	0.18	(不明)	(不明)
袖壁	吹抜高	2.10	2.10	2.30
	-	二重棚、桐、竹	二重棚、竹	二重棚
	床	杉鏡板張、平天井	鏡天井、平天井	鏡天井、平天井
台目 (点前畳)		シノ竹蒲天井、落天井	棹縁竹蒲天井、落天井	黒ベ杉押フチ竹、平天井
工业	床前	シノ竹ノネ板天井、平天井	白竹棹縁野根板天井、平天井	蒲、落天井
天井	躙口前	掛込天井	掛込天井	掛込天井
	突き上げ窓	有 約 1.60 ×約 1.20	有 約 1.80 ×約 1.10	有 1.80 × 1.40
躙口	高×幅	2.28 ×約 2.20	2.20 × 2.00	2.40×2.50
茶道口 高×幅 建具		5.19 × 2.20	5.10 × 2.10	5.00 × 2.00
		方立口、タイコ襖	方立口、タイコ襖	方立口
	高×幅	約 3.92 ×約 1.80	4.30 × 2.00	3.93 × 1.90
給仕口	建具	火灯口、タイコ襖(白和紙)	火灯口、タイコ襖	火灯口
下地窓1	高×幅	2.44 × 2.30、力竹	2.20×約2.0、力竹	2.10 × 2.00、力竹
(床前)	畳からの高	2.49	約 2.20	約 2.00
	高×幅	1.61 × 1.35、力竹	1.50×約1.30	1.60 × 1.30、力竹
下地窓2 (躙口前)	畳からの高	3.42	3.40	3.30
	隅柱からの距離	約 0.32	約 0.40	0.44
下地窓 3 高×幅 (風炉先窓) 畳からの高		1.61×約1.30、力竹	1.60×約1.20、力竹	1.63 × 1.30、力竹
		約 0.60	0.60	0.56
連子窓	高×幅	2.00 × 4.74	2.10 × 4.80	約 2.00 × 4.85
壁	仕上げ	京壁、ジュラク	(不明)	(不明)
	腰貼	灰色2段・白1段	湊紙	コシ紙ミノカミ
	腰貼高	1.80 (2 段) 0.95 (1 段)	1.80 (2 段) 約 0.90 (1 段)	1.83 (2 段) 0.91 (1 段)
参考	芳 資料	中原暢子:「茶室のある家」『新 建築 住宅特集』(1986.10)	北尾治道:『茶室の展開図』 (1970)	覃斎儀卿:『囲おこし図』(出版 年不明) 中村昌生:「川上不白の茶室」、 『川上不白の茶』(1991.7)

表7 「暢庵」、「長生庵」及び「黙雷庵」の図面による比較



^{※2} 引手位置は、平面図や写真との照らし合わせにより、誤植と考えられる。

3-6 まとめ

「暢庵」と「長生庵」、「黙雷庵」の差異を以下にまとめる。

- ①「長生庵」との比較では、給仕口の高さが若 干低い。
- ②「長生庵」との比較では、風炉先窓が若干吊棚寄りに配置されている。
- ③連子窓の窓台が柱まで伸びている。
- ④「黙雷庵」との比較では、南面連子窓が中心 に配置されている。

自身の要望を実現できる自邸の設計では、他の 写しと思われる作品よりも、本歌を最も忠実に再 現していた。修理報告書などを参考にして構法の 一部変更して補強を行っているが、寸法としては 全くの変更がない。ただし、床の間や突き上げ窓 に蛍光灯を仕込み、コンセントを設置するなど、 設備面での積極的な対応がされている。

4. 「大野邸茶室」茶室三畳台目

中原は、1990年に母屋とは別棟の茶室を「大野邸茶室」として設計している。この建物は、木造2階建てであり、「一円庵」の写しと思われる茶室三畳台目の他、八畳の広間に加え、2室の水屋、寄付、厨房を備えた本格的な茶室である。茶庭は、外腰掛や内腰掛、雪隠、蹲等が巧みに配されている(写真3·4)。「大野邸茶室」の全ての茶室にも、床暖房の計画はあったが、図面には「中止」との記載が残されている(図9)。



写真 3 「大野邸茶室」茶室 三畳台目躙口



写真 4 「大野邸茶 室」茶庭

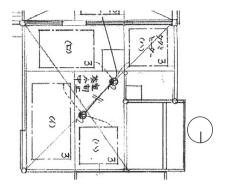


図9 「大野邸茶室」茶室三畳台目床暖房の中止

4-1 風炉先床の三畳台目茶室

「大野邸茶室」の南東角に位置する茶室三畳台目の平面形状は、点前座の上座に床を客座に向けて並べて設けた風炉先床で、三畳台目中柱台目切である。

「大野邸茶室」と同じ三畳台目は計 129 件存在 するが、風炉先床中柱台目切に限ると「一円庵」 を含む6件が該当した(表8)。

表 8 風炉先床深三畳台目中柱台目切茶室

茶室名	造営	好み (創建者)	床の間と 躙口の関係と 貴人口
南禅寺金地院 「八窓の席」	寛永5年 (1628)	小堀遠州	躙口正面
江戸千家 「一円庵」	宝暦 4 年 - 不白没 (1754-1807)	川上不自	躙口正面
陽明文庫 「虎山荘」	1944	不明	躙口右 貴人口あり
興亜火災海上 保険 「愛宕荘」	1995	レーモンド 設計事務所	躙口右
豊国神社 「豊秀舎」	不明	不明	躙口正面
「目黒の家」	不明	不明	躙口正面 貴人口あり
「大野邸茶室」 茶室三畳台目	1990.9 設計	中原暢子	躙口正面

「一円庵」の類似の間取りは、「愛宕荘」が挙げられるが、貴人口がなく、躙口正面に床の間を構える配置は、「一円庵」のみであった。

4-2 「一円庵」について

一円庵は、七代蓮々斎(1846-1908) により移 築されたとされている。1869年に茶屋の他玄関、

寄付と共に現在地である池之端に移築され、1962年に東重宝(現在の東京都指定有形文化財)に指定された¹⁶⁾。「床は躙口の正面に配し、…(中略)…茶道口は方立口とし、給仕口は花頭(火灯)口としてその位置は客座付の便利の良いところに配されている。点前座床左脇の下部吹抜けの所を風炉先として一重棚を付しているのもその形式としては珍しい構想である。」¹⁷⁾といわれている。

4-3 「大野邸茶室」茶室三畳台目の材料や寸 法等による比較

「大野邸茶室」茶室三畳台目と「一円庵」を材料や寸法等で比較すると、次のようになる(表9)。

「大野邸茶室」三畳台目には、点前座に二重棚の釣棚がある。また、屋根には突き上げ窓がある。この突き上げ窓には、板戸が付いており、室内の明るさの調整ができる。さらに連子窓の幅が5尺4寸と短く、畳からの高さも1尺4寸5分と低い。また、下地窓3(点前座奥)が配されている。突き上げ窓や中柱、床脇の吹抜きの有無、釣棚の種類等、異なる部分も多々みられる。

4-4 「大野邸茶室」茶室三畳台目と「一円庵」 の図面による比較(表10)

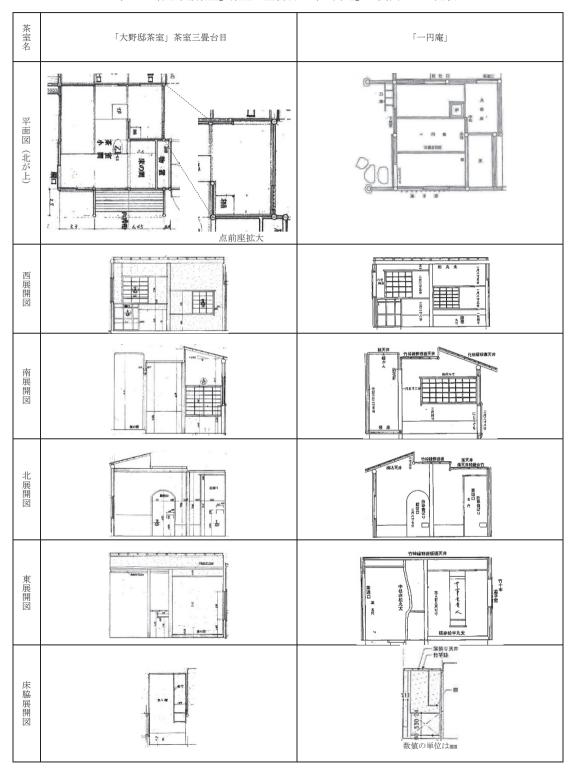
平面図を比較すると、畳の敷き方に違いがみら れる。「一円庵」は、三畳の丸畳を横並びにして いるのに対し、「大野邸茶室」茶室三畳台目は、 三畳のうち一畳を直行した向きに敷く深三畳台目 である。連子窓の幅は、「一円庵」に比べると、「大 野邸茶室 | 茶室三畳台目のほうが狭くなっている。 これは、「一円庵」にはそれに附属する外腰掛は なく、同敷地内に建つ復元された「蓮華庵」に付 随する外腰掛を使うが、「大野邸茶室 | 茶室三畳 台目は、この茶室に付随する外腰掛が南面にある ため、それが可能であったと推察できる。「一円庵」 西面の下地窓1は、外部に刀掛があるため、中央 に寄っているが、「大野邸茶室」茶室三畳台目は、 八畳茶室の入側に面する戸袋があるため、それを 避ける形で北側に寄せて配置をしている。中柱に も違いがみられる。「一円庵」の中柱は、曲柱となっ ているが、「大野邸茶室」茶室三畳台目では、直 柱を採用している。さらに、「一円庵」にみられ

表9 「大野邸茶室」茶室三畳台目と「一円庵」の材料や寸法等による比較(単位:尺)

所在	村で「広寺による比較(単位・八)					
大野邸邸内 江戸千家 宝暦 4 年~不白 1754 ~ 1807 1869 年に移築 西 西 西 西 西 西 西 西 西	茶室名			「一円庵」		
建設時期	所在			東京都台東区池之端		
建設時期 (設計: 1990.9) (1754 ~ 1807) 1869 年に移築 方位 躙口 西 西 勝手 本勝手 本勝手 本勝手 水点 本床(畳敷) 本床(畳敷) 風炉先床 床框 (不明) 赤松半丸太 床柱 (不明) 0.30 合目切 中柱 (不明) (高日切 会目切 中柱 (不明) (不明) (不明) 吹抜高 2.19 2.20 釣棚 二重棚、桐、竹 一重棚 床の間 鏡天井、平天井 韓天井、平天井 台目 ノネ板、シノ芽竹、中美井、平天井 中天井、平天井 おし 平天井 財政天井、平天井 おしずまり、中天井 財政天井 財政天井 実き上げ窓 1.60×2.00 無 満口前 第三年 大の口、白奉ばり 素道口 東京山、海洋 大のと200 大のと200 本第口 大の工、白奉学/コ 財 大の工、白奉ばり 大の工、白奉ばり 本端 3.92×2.00 3.87×1.97 大力口、白奉ばり 本衛口 連身・のの高 1.45 1.40 1.40 下地窓 2			大野邸邸内	江戸千家		
1869 年に移築 西 西 西 西 西 西 西 西 西				宝暦 4 年~不白没		
勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本勝手 本 本 本 本 本 本 本 表 本 大 本 本 大 本 本 大 本 本	建設	時期	(設計:1990.9)			
形式 本床(畳敷) 本床(畳敷) 位置 風炉先床 風炉先床 床框 (不明) 赤松半丸太 途付磨き丸太 径 (不明) 白目切 台目切 中柱 (不明) (直) 赤松丸太 (曲) 径 (不明) (正明) (不明) (不明) (下投高 2.19	方位	躙口	西			
株の間 位置 風炉先床 風炉先床 未松半丸太 株柱 (不明) 61付磨き丸太 径 (不明) 61目切 台目切 中柱 (不明) (直) 赤松丸太 (曲) 径 (不明) (正明) (不明) 吹抜高 2.19 2.20	勝	手	本勝手	本勝手		
床の間 床框 (不明) 赤松半丸太 床柱 (不明) の30 位種類 台目切 台目切 台目切 中柱 (不明) (直) 赤松丸太 (曲) 径 (不明) (正明) (不明) 吹抜高 2.19 2.20 会別 二重棚、桐、竹 一重棚 元重棚、桐、竹 一重棚 上下井 一工工棚 「下来产井 一工工程 一工		形式	本床 (畳敷)	本床 (畳敷)		
床柱 (不明) 節付磨き丸太 径 (不明) 0.30 炉 種類 台目切 台目切 中柱 (不明)(直) 赤松丸太(曲) 径 (不明) (不明) 吹抜高 2.19 2.20 釣棚 二重棚、桐、竹 一重棚 床の間 鏡天井、平天井 台目 一重棚 水板、シノ芽竹、平天井 平天井、平天井 中天井,平天井 水前 平天井 井、平天井 平天井,平天井 大井 平天井 井、平天井 井、平天井 井、平天井 井、平天井 井、平天井 井、平天井 東・平天井 井、平天井 カ・エスナ 大 大田 天井 東・平天井 カンロ カンロ </td <td></td> <td>位置</td> <td>風炉先床</td> <td>風炉先床</td>		位置	風炉先床	風炉先床		
床柱 (不明) 節付磨き丸太 径 (不明) 0.30 炉 種類 台目切 台目切 中柱 (不明)(直) 赤松丸太(曲) 径 (不明) (不明) 吹抜高 2.19 2.20 釣棚 二重棚、桐、竹 一重棚 床の間 鏡天井、平天井 台目 一重棚 水板、シノ芽竹、平天井 平天井、平天井 中天井,平天井 水前 平天井 井、平天井 平天井,平天井 大井 平天井 井、平天井 井、平天井 井、平天井 井、平天井 井、平天井 井、平天井 東・平天井 井、平天井 カ・エスナ 大 大田 天井 東・平天井 カンロ カンロ </td <td>床の間</td> <td>床框</td> <td>(不明)</td> <td>赤松半丸太</td>	床の間	床框	(不明)	赤松半丸太		
接 (不明) 0.30 炉 種類 台目切 台目切 中柱 (不明) (直) 赤松丸太(曲) 俊 (不明) (不明) (不明) 吹抜高 2.19 2.20 釣棚 二重棚、桐、竹 一重棚 床の間 鏡天井、平天井 鏡天井、平天井 白目 ノネ板、シノ芽竹、平天井・平天井・落天井・平天井・平天井・落天井・平天井・平天井・落天井・平天井・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田			(不明)			
炉 種類 台目切 台目切 中柱 (不明)(直) 赤松丸太(曲) 校 (不明) (不明) 吹抜高 2.19 2.20 釣棚 二重棚、桐、竹 一重棚 床の間 鏡天井、平天井 韓縁無竹蒲天井・平天井・落天井・平天井・落天井・平天井・落天井・平天井・落天井・平天井・落天井・平天井・水彦夫井・平天井・大井・平天井・大井・平天井・大井・平天井・大井・平天井・大井・平天井・大井・平天井・大井・大井・大井・大井・大井・大井・大井・大井・大井・大井・大井・大井・大井						
神壁 中柱 (不明)(直) 赤松丸太 (曲) 校 (不明) (不明) (不明) 吹抜高 2.19 2.20 釣棚 二重棚、桐、竹 一重棚 床の間 鏡天井、平天井 鏡天井、平天井 台目 ノネ板、シノ芽竹、平天井、落天井、平天井、落天井、平天井、落天井、平天井、瀬子井、平天井、瀬子井、平天井、瀬子井、平天井、瀬子井、平天井、瀬子井、平天井、瀬子井、平天井、瀬子井、平天井、瀬子井、平天井、瀬田町前、1.60×2.00 無 高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 茶道口 建具 財品の×2.00 カ立口、白奉ばり、カ立口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白奉ばり、大灯口、白本ばり、大灯口、大灯口、大灯口、白本ばり、大灯口、大灯口、大灯口、大灯口、白木町、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本ばり、大灯口、大灯口、白本はり、大灯口、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、大灯口、大灯口、白本はり、大灯口、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、白本はり、大灯口、大灯口、白木、大灯口、大灯口、白本	hi	-				
イスリー	Ŋ					
棚壁 吹抜高 2.19 2.20 釣棚 二重棚、桐、竹 一重棚 床の間 鏡天井、平天井 鏡天井、平天井 台目 ノネ板、シノ芽竹、平天井、落天井、平天井、落天井、平天井、落天井 水前 がま、平天井 村稼縁野根板天井、平天井 選口前 掛込天井 有(板戸付)1.60×2.00 無 高×幅 2.26×2.10 2.28×2.05 5.00×2.00 茶道口 建具 財 方立口、白奉ばり 素道口 建具 火灯口、奉書タイコ 財 火灯口、白奉ばり お公組 1.92×1.87 1.83×約 2.00 下地窓 1 (調口債) 畳からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (調口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 園口上) 高が幅 2.34×2.24 2.25×1.98 電からの高 1.30 一 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 連子窓 高からの高 1.45 1.45 2.40 2.40			* * * * * * * * * * * * * * * * * * *			
釣棚 二重棚、桐、竹 一重棚 床の間 鏡天井、平天井 鏡天井、平天井 台目 ノネ板、シノ芽竹、 平天井 棹縁細竹蒲天井、平天井、落天井 竹棹縁野根板天井、平天井 井、平天井 水は、平天井 掛込天井 持込天井 変き上げ窓 有(板戸付) 1.60×2.00 無 高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 茶道口 建具 力立口、春書タイコ 財 方立口、白奉ばり 高×幅 3.92×2.00 3.87×1.97 水灯口、奉書タイコ 財 大灯口、白奉ばり 下地窓1 (調口債) 高×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 下地窓2 (調口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 で地窓3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4×約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 量からの高 1.45 2.40	袖壁	-				
床の間 鏡天井、平天井						
大井 合目 ノネ板、シノ芽竹、 平天井 棹縁細竹蒲天井、 平天井、落天井 竹棹縁野根板天井、平天井 掛込天井 週口前 掛込天井 大き上げ窓 有(板戸付) 1.60×2.00 無 週口 高×幅 2.26×2.10 2.28×2.05 高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 茶道口 建具 力立口、白奉ばり 財 高×幅 3.92×2.00 3.87×1.97 株付口、奉書タイコ財 火灯口、春書タイコ財 大灯口、白奉ばり 下地窓1 (調口横) 高×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 下地窓2 (調口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 運からの高 2.34 2.28 下地窓3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4×約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 量からの高 1.45 2.40						
天井 平天井 平天井、落天井 床前 がま、平天井 竹棹縁野根板天井、平天井 躙口前 掛込天井 掛込天井 実き上げ窓 有(板戸付)1.60×2.00 無 高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 茶道口 建具 力立口、奉書タイコ 貼 高×幅 3.92×2.00 3.87×1.97 大灯口、奉書タイコ 貼 火灯口、白奉ばり 下地窓 1 (調口横) 畳からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (調口上) 畳からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 畳からの高 1.30 一 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 量からの高 1.45 2.40		床の間				
大井 床間 かま、平大井 躙口前 掛込天井 実き上げ窓 有(板戸付) 1.60×2.00 無 躙口 高×幅 2.26×2.10 2.28×2.05 高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 孝道口 万立口、奉書タイコ 貼 方立口、白奉ばり 高×幅 3.92×2.00 3.87×1.97 火灯口、奉書タイコ 貼 火灯口、白奉ばり 下地窓1 (躙口性) 高×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 下地窓2 (躙口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 「地窓2 (躙口上) 豊からの高 2.34 2.28 下地窓3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4×約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 連子窓 一 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70		台目		棹縁細竹蒲天井、 平天井、落天井		
実き上げ窓 有 (板戸付) 1.60×2.00 無 高×幅 2.26×2.10 2.28×2.05 高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 建具 方立口、奉書タイコ 貼 方立口、白奉ばり 給仕口 建具 火灯口、奉書タイコ 比 火灯口、白奉ばり 育×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 (調口機) 貴からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (調口上) 貴からの高 2.34 2.25×1.98 (調口上) 貴からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 貴からの高 1.30 一 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 量からの高 1.45 2.40	天井	床前	がま、平天井			
実き上げ窓 有(板戸付) 1.60×2.00 無 調口 高×幅 2.26×2.10 2.28×2.05 高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 建具 方立口、奉書タイコ 貼 方立口、白奉ばり 給仕口 建具 火灯口、春書タイコ 貼 火灯口、白奉ばり 下地窓 1 (鋼口機) 高×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 下地窓 2 (鋼口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 下地窓 3 (点前座奥) 畳からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 畳からの高 1.30 — 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 量からの高 1.45 2.40		躙口前	掛込天井	掛込天井		
高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 水立口、奉書タイコ 貼 方立口、白奉ばり 高×幅 3.92×2.00 3.87×1.97 水灯口、奉書タイコ 貼 火灯口、白奉ばり 下地窓 1 (躙口横) 高×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 一 豊からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (躙口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 一 豊からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4×約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 豊からの高 1.45 2.40		突き上げ窓		無		
高×幅 5.19×2.02 5.00×2.00 水立口、奉書タイコ 貼 方立口、白奉ばり カ立口、白奉ばり 高×幅 3.92×2.00 3.87×1.97 水灯口、奉書タイコ 貼 火灯口、白奉ばり 下地窓 1 (躙口横) 高×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 〒地窓 2 (躙口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 西山上) 貴からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 貴からの高 1.30 — 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 量からの高 1.45 2.40	躙口	高×幅	2.26×2.10	2.28×2.05		
選具 貼 カ立口、日奉ばり 高×幅 3.92×2.00 3.87×1.97 火灯口、奉書タイコ 貼 火灯口、白奉ばり 上		高×幅	5.19×2.02			
給仕口 建具 火灯口、奉書タイコ 貼 火灯口、白奉ばり 下地窓 1 (躙口横) 高×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 畳からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (躙口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 畳からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4×約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 畳からの高 1.45 2.40	茶道口	建具		方立口、白奉ばり		
給仕口 建具 火灯口、奉書タイコ 貼 火灯口、白奉ばり 下地窓 1 (躙口横) 高×幅 1.92×1.87 1.83×約 2.00 畳からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (躙口上) 高×幅 2.34×2.24 2.25×1.98 畳からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4×約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 畳からの高 1.45 2.40		高×幅	3.92×2.00	3.87×1.97		
(調口横) 畳からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (調口上) 高×幅 2.34 × 2.24 2.25 × 1.98 度からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4 ×約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40 × 5.20 1.52 × 4.70 量からの高 1.45 2.40	給仕口		火灯口、奉書タイコ	火灯口、白奉ばり		
(調口横) 畳からの高 1.45 1.40 下地窓 2 (調口上) 高×幅 2.34 × 2.24 2.25 × 1.98 (調口上) 畳からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4 ×約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40 × 5.20 1.52 × 4.70 量からの高 1.45 2.40	下地窓1	高×幅		1.83×約 2.00		
下地窓 2 (躙口上) 高×幅 2.34 × 2.24 2.25 × 1.98 畳からの高 2.34 2.28 下地窓 3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4 × 約 2.4 無 連子窓 高×幅 2.40 × 5.20 1.52 × 4.70 量からの高 1.45 2.40						
(鋼口上) 畳からの高 2.34 2.28 下地窓 3 高×幅 約 2.4 ×約 2.4 無 (点前座奥) 畳からの高 1.30 — 連子窓 高×幅 2.40 × 5.20 1.52 × 4.70 畳からの高 1.45 2.40						
下地窓 3 (点前座奥) 高×幅 約 2.4 ×約 2.4 無 豊子窓 畳からの高 1.30 - 連子窓 畳からの高 1.45 1.52 × 4.70 豊からの高 1.45 2.40						
(点前座奥) 畳からの高 1.30 — 連子窓 高×幅 2.40 × 5.20 1.52 × 4.70 畳からの高 1.45 2.40						
連子窓 高×幅 2.40×5.20 1.52×4.70 畳からの高 1.45 2.40						
連子窓 畳からの高 1.45 2.40	(水阴)生类/			152 × 470		
	連子窓					
仕上げ サス 尽壁	壁		京土、よこ波塗、ス			
壁 腰貼 みなと紙、白 湊紙、白		腰貼		湊紙 . 白		
	腰貼高			0.50		
参考資料 茶室工事設計図』 (1990) 北尾治道:『茶室 展開図』(1970)	参考資料		茶室工事設計図』	北尾治道:『茶室の 展開図』(1970)		

る床脇の吹抜き(高:1尺7寸4分)は、「大野 邸茶室」茶室三畳台目にはみられない。その他、 茶道口、給仕口の太鼓襖の引手高さが、「一円庵」 よりも高い位置となっている。

表 10 「大野邸茶室」茶室三畳台目と「一円庵」の図面による比較



以上のことから、「大野邸茶室」茶室三畳台目は、「一円庵」の完全な写しではないことが明らかになった。

「大野邸茶室」の平面図の中心に位置する八畳 広間の床前畳には「家相の中心」との表記があり (図 10)、鬼門と裏鬼門を結ぶ線上に水回りを避 ける等といった家相による制約の影響もあったと 推察できる。

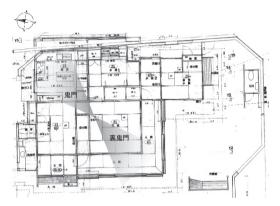


図10 「大野邸茶室」の鬼門裏鬼門

4-5 まとめ

「大野邸茶室」茶室三畳台目と「一円庵」の差 異を以下にまとめる。

- ①点前座にある釣棚は二重棚である。
- ②突き上げ窓がある。
- ③連子窓の幅が5尺4寸と短く、畳からの高さ も1尺4寸5分と低い。
- ④畳の敷き方は深三畳台目である。
- ⑤西展開図の下地窓1が給仕口寄りとなっている。
- ⑥中柱を直としている。
- (7)床脇壁面が吹抜きとなっていない。
- ⑧茶道口・給仕口の引手の高さが4尺9寸3分 (1.495mm) と高い。
- ⑨中柱のある控え壁に隠れて、東展開図では確認できないが、点前座東に下地窓3を設けている。

5. 結論

中原の写しにおける本歌との差異を分析する と、茶人建築家としての評価の一端をみることが できる。

5-1 結論

中原が設計した草庵茶室の写しと思われる3室は、いずれもほぼ本歌と同じ方向で設計されていた。図面等との比較の結果、中原の写しは本歌を忠実に再現しようと試みているが、その反面、細部においては大胆な差異がみられる。それは、茶事を行う側の機能性や使い勝手を重視しているという点である。

「森邸」茶室三畳台目は、茶道口を2つ設けることで、亭主の動線の面から、自邸「茶室のある家」二畳台目の「暢庵」は、人工照明や床暖房等の設備的な面から、さらに、「大野邸茶室」茶室三畳台目は、点前座の採光をとるために、点前座東に下地窓を付けることで、使い勝手を重視した設計がされていることが明らかになった。

5-2 今後の課題

本歌を写すにあったっての各流派における掟の 有無やその内容、施主の茶道流派についての確認 はとれていない。そのため、それらを明確にする ことで、論証をより確かなものとすることが今後 の課題である。また、本論では小間の写しにおけ る中原の設計思想に触れることが出来た。さらに、 今後は広間やその他全体の構成をとりあげること で、中原の茶室建築設計における特質について、 さらに解明してゆきたい。

謝辞

最後に、元所員の白井克典氏、同大島康治氏、 江戸千家家元十代川上宗雪氏には、ヒアリング調 査にご協力いただいた。また、大野まさ子氏、松 村博行氏には、「大野邸茶室」の茶庭見学にご協 力していただいた。厚く感謝申し上げる。

図表出典

- 図 1) 中原暢子: 「103 配置図 1 階平面図」, 『森邸新築工 事設計図』, 1987.2.14 下部の寸法線は場所を移動
- 図 2) 中原暢子:「茶室2畳台目平面図」,『中原暢子の 木造住宅設計図面集』, p.181 より抜粋。図面作成は 1985.12.18 との記載あり

- 図 3) 前掲書図2)「堀内家長生庵実測展開図 茶室2畳 台目展開図」、p.183より抜粋。図面作成は 1985.10.21との記載あり。元所員の大島康治による と、「茶室のある家」の設計は、作図も含め所員は 全く関与せず、中原がひとりで行ったという
- 図 4) 前掲書図 2)「503 床暖房工事設計図」, p.205 より 抜粋
- 図 5)前掲書図 2)「305 電気設備電灯コンセント図」, p.197 より抜粋
- 図 6)北尾治道:「ち /62/ 長生庵」, 『茶室の展開図』, p.153, 光村推古書院, 1970より抜粋
- 図 7) 浅田晃彦:「黙雷庵を建てる」、『不白の跡を探ねて』、 p.107、1979.12より抜粋
- 図 8) 覃斎儀卿:「19 不白黙雷庵」、『囲おこし図』、出版 年不明。マイクロフィルムの資料から抜粋。図はす べて展開した状態だが、中柱のある袖壁により、点 前畳の一部が隠れている。材料については、ほとん ど記載されておらず、不明な点が多い
- 図 9) 中原暢子: 「503 床暖房設備工事」, 『大野邸茶室工 事設計図』, 1990.9.11 より抜粋
- 図10) 前掲書図9)「1031階平面図」の八畳広間より抜 ***
- 表 1) 元所員白井克典より譲り受けた中原設計の実施図 面等により筆者が調査
- 表 2) 根岸照彦: 「3畳台目」、『茶室の解明 平面データ 集成』、pp.56-59、p.98、建築資料研究社、2001.11 を 元に上座床平三畳台目中柱台目切を抽出し、「森邸」 茶室三畳台目を追加し、筆者が作成
- 表 3) 前掲書図 1)「103 配置図 1 階平面図」,「109 茶室 展開図」及び前掲書図 6)「ふ /81/ 不審庵」, pp.196-197 より筆者が作成
- 表 4) 前掲書図 2) 及び前掲書図 1)「ふ/81/不審庵」より筆者が作成
- 表 5) 前掲書表 2) 「2 畳台目」, pp.48-51 を元に筆者が 二畳台目中柱台目切を抽出し、中原自邸「暢庵」を 追加し、筆者が作成。躙口がないものは、貴人口か らみた床の間の位置を記載
- 表 6) 中原暢子:「茶室のある家」,『新建築』, pp.42-43, 198.10、前掲書図 6) 「ち /62/ 長生庵」, pp.153-154, 及び図 8) を元に、筆者が作成
- 表 7) 前掲書表 6) 及び前掲書図 8) より筆者が加工。 黙雷庵については、起こし絵図から抽出したため、

- 平面図に壁厚や柱、開口部位置は表現されていない
- 表 8) 前掲書表 2) を元に風炉先床深三畳台目中柱台目 切を抽出し、「大野邸茶室」茶室三畳台目を追加し、 筆者が作成
- 表 9) 前掲書図 9) 「103 1 階平面図」, 「111 茶室小間展開図」, 及び前掲書図 6) 「い /6/一円庵」, pp.16-17より筆者が作成
- 表 10) 前掲書表 9) 及び前掲書図 6) 「い /6/ 一円庵」より筆者が加工。「一円庵」の床脇展開図は、伊郷吉信: 「江戸千家の建築と自然 その 1」、『住宅建築』、 No.434、p.70、建築資料研究社、2012.8 より抜粋
- 写真 1) 中原暢子: 「茶室のある家」, 『新建築 住宅特集』, p.42, 新建築社, 1986.10
- 写真 2) 千宗左・村田治郎・北村伝兵衛:「堀内家 長生 庵 内部 3」、『茶室 設計詳図とその実際』、p.217、淡 交社、1959.11

写真3) 筆者による撮影 (2018.12.3)

写真4) 筆者による撮影 (2018.12.3)

注

- 1) 林屋辰三郎他7名:「写し」,『角川茶道大事典 普及版』, p.147, 角川書店, 2002.9
- 2) 前掲書注 1): 「不審庵」, p.1187
- 3) 東京都教育庁地域教育支援部:東京都文化財情報 データベース.
 - https://bunkazai.metro.tokyo.lg.jp/jp/search_detail. html?page=1&id=167
- 4) 川上宗雪監修:「不審庵の仕様」, 『不白筆記付・孤 峯川上不白道具帳写』, p.24, 中央公論新社, 2019.11 『不白筆記』は、江戸千家の祖川上不白が師如心斎 の茶説を聞き記した書物で、成立時期は宝暦8(1758) 年、安永2(1773)年の説がある
- 5) 中原暢子:「現代住宅の空間構成Ⅲ "極小空間をつくり 住まう その心理的考察を含めて"」,『東京家政学院大学紀要』,第 28 号, p.8, 3 東京家政学院大学, 1988.8
- 6) 元所員大島康治へのヒアリング (2018.10.27) による
- 7) 堀内仙鶴 (1675-1748) は、表千家六代千宗左に学び、 掘内家初代家元であるが、以前は俳諧師であった。 江戸の生まれで水間沾徳 (1662-1726) の門下である。 とともに書画も堪能であった。山田宗徧 (1627-1708) の門弟堀内浄佐 (1612-1699) の養子なって茶道界に

入った

- 8) 前掲書注 1): 「長生庵」, p.924
- 9) 川上宗雪: 「第4章 黙雷庵の茶頭」, 『茶人 川上不白』, p.49, 茶の湯研究所, 2007.11
- 10)「起こし絵図」とは、平面図に展開図を加え、貼り付けや差し込みによって組み立てると立体になる建築図面であり、茶室の設計や茶室の写しを作る際に参考とするもので、江戸時代に盛んに作られた
- 11) 前掲書図7), p.106
- 12) 前掲書注 1), 「黙雷庵」, p.1350
- 13) 如心斎は、家元制度の基礎を築き、七事式を制定するなど茶道人口増大の時代に対応する茶の湯を模索

した人物であり、その師は表千家六代原叟(覚々斎) (1678-1730) である

- 14) 前掲書注 9),「口絵解説 15 16 阿弥陀堂釜 琳光 院 黙雷庵 常什」, p.153
- 15) 中村昌生:「川上不白の茶室」, 『川上不白の茶』, p.84, 講談社, 1991.7
- 16) 伊郷吉信: 「江戸千家の建築と自然 その1」, 『住宅 建築』, No.434, p.70, 建築資料研究社, 2012.8
- 17) 前掲書図 6) 「6 一円庵〈いちえんあん〉」, p.254 「火 灯口」は「花頭口」と記す場合もある

(受付 2020.3.25 受理 2020.7.7)